

市街地空間におけるバリアの実態に関する研究 (その6)

—建物における現状と課題について—

日大生産工 ○野田 りさ 日大生産工 川岸 梅和

1. はじめに

本研究は、既報「市街地空間におけるバリアの実態に関する研究 (その1~5)」に引き続く一連の研究である。

前稿においては、4つの商店街をケーススタディとして、利用者及び運営者の活動実態や建物(内部空間)及び商店街(外部空間)双方の側面からみた利用者・運営者が意識するバリアを明らかにすると共に、バリアフリー(以下、BF)やユニバーサルデザイン(以下、UD)といった可能な限り多くの人にとって利用できる社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念に即した環境づくりに関する運営者の意識及び運営者が商店街において問題視している事項について検討した。

本稿では、引き続き4つの既存の商店街を研究対象として、建物における現状と利用者意識及び運営者意識の比較を通じて、商店街における市街地空間の課題を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

2.1 調査対象地区

本稿における調査対象地域は既報と同様であり、近隣型商店街^{注1)}のケーススタディとして大久保商店街(千葉県習志野市大久保地区)、地域型商店街^{注1)}のケーススタディとして津田沼1丁目商店街(千葉県習志野市津田沼地区)、広域型商店街^{注1)}のケーススタディとして船橋駅前商店街(千葉県船橋市本町地区)、超広域型商店街^{注1)}のケーススタディとして銀座通り(東京都中央区銀座地区)を選定している。

2.2 調査方法

本研究では以下、3種類の調査を実施している。

第一に、利用者意識を抽出することを目的とした利用者ヒアリング調査では、商店街を利用する利用者に対して現地において直接対面による聞き取り調査を実施した。調査期間は、2010年8月(第1回調査:大久保商店街及び津田沼1丁目商店街)、2011年8月(第2回調査:船橋駅前商店

街)、2012年8月(第3回調査:銀座通り)である。調査対象者数は8段階の年齢層毎に、男性・女性、平日・休日併せて10名以上(但し、80代以上のみ5名以上)となっている。調査対象者には、各商店街全てで子育て世代(ベビーカー使用者、妊婦)、肢体不自由者(福祉用具使用者)、その他視覚障害者(白杖使用)、車いす使用者、外国人等を複数名含んでいる。

第二に、運営者意識を抽出することを目的とした運営者アンケート調査では、商店街で営業を行う店舗に対して、訪問による配布、後日回収する配票調査形式(店舗を営業する責任者に回答してもらう)で実施した。回収率は大久保商店街87.0%、津田沼1丁目商店街56.4%、船橋駅前商店街72.0%、銀座通り58.3%であった。

第三に、商店街の現状を捉えることを目的とした目視・実測調査を実施した。本調査では建物及び街路双方の側面から現状を把握すると共に、利用者意識・運営者意識から明らかになったバリアの確認調査も並行して実施した。

3. 建物において利用者が意識するバリア(表1)

建物において利用者が意識するバリアの有無に関して、性別・年代別に比較すると、大久保商店街(以下、大久保)において、バリアが有ると回答した全体結果(男性:24.4%、女性:35.8%)より高い割合結果を示したのは、男性では20代、40代、60代、70代と中高年層が回答しているのに対し、女性では10代、20代、60代と若年層が回答している。津田沼1丁目商店街(以下、津田沼)において、バリアが有ると回答した全体結果(男性:45.8%、女性:46.5%)より高い割合結果を示したのは、男性では20代~50代、80代以上であり、女性では20代、30代、50代、60代であり、男性女性共に類似傾向がみられる。船橋駅前商店街(以下、船橋)において、バリアが有ると回答した全体結果(男性:17.3%、女性:25.3%)より高い割合結果を示したのは、男性では10代、20代、40代、50代であり、女性では20代~40代であり、津田沼の結果同様、男性女

Research on the Realities of Barriers in Urban Areas Part6

—Current States of the Building and Issues to be Resolved from the Perspective—

Risa NODA and Umekazu KAWAGISHI

性共に類似傾向がみられる。銀座通り（以下、銀座）において、バリアが有ると回答した全体結果（男性：25.3%、女性：28.5%）より高い割合結果を示したのは、男性では20代、40代、60代、70代であり、女性では30代～50代、80代以上が

回答した。

また、具体的に意識するバリアの項目に関して、利用者は「入り口の段差」や「入り口の段差解消ステップ」、「階段」等のアクセシビリティにバリアを意識する傾向がみられる。

表1 建物において利用者が意識するバリア

		男性									女性							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	
大久保商店街	意識するバリアが有る	13.0%	25.8%	10.0%	27.3%	19.0%	45.0%	40.0%	9.1%	47.6%	33.3%	38.9%	30.0%	28.6%	50.0%	20.0%	40.0%	
	意識するバリアが無い	87.0%	74.2%	90.0%	72.7%	81.0%	55.0%	60.0%	90.9%	52.4%	66.7%	61.1%	70.0%	71.4%	50.0%	80.0%	60.0%	
	意識するバリア項目 (回答が多かった項目)	③	⑨		⑪		①	⑦		③⑨⑬	①⑨	①	③	①	①	⑪	①⑦	
津田沼1丁目商店街	意識するバリアが有る	41.7%	62.5%	50.0%	47.6%	47.6%	40.9%	29.2%	50.0%	36.4%	52.6%	60.0%	45.8%	56.5%	48.4%	28.6%	41.7%	
	意識するバリアが無い	58.3%	37.5%	50.0%	52.4%	52.4%	59.1%	70.8%	50.0%	63.6%	47.4%	40.0%	54.2%	43.5%	51.6%	71.4%	58.3%	
	意識するバリア項目 (回答が多かった項目)	⑦	⑦	①⑥	⑦	①⑦	⑦⑬	①⑦		①	①	①	①	①	⑩	⑦⑩	①⑤	
船橋駅前商店街	意識するバリアが有る	17.4%	21.7%	13.6%	30.4%	22.7%	16.0%	8.0%	0.0%	5.9%	56.0%	34.8%	40.9%	20.0%	13.6%	16.7%	18.2%	
	意識するバリアが無い	82.6%	78.3%	86.4%	69.6%	77.3%	84.0%	92.0%	100.0%	94.1%	44.0%	65.2%	59.1%	80.0%	86.4%	83.3%	81.8%	
	意識するバリア項目 (回答が多かった項目)	④	①④⑤	①	①	②	①	①		⑨	①	①	⑨	①	⑨	①	①⑤	
銀座通り	意識するバリアが有る	22.7%	33.3%	15.0%	36.0%	10.0%	40.0%	26.3%	10.0%	20.0%	26.1%	41.7%	30.0%	30.0%	23.8%	20.0%	40.0%	
	意識するバリアが無い	77.3%	66.7%	85.0%	64.0%	90.0%	60.0%	73.7%	90.0%	80.0%	73.9%	58.3%	70.0%	70.0%	76.2%	80.0%	60.0%	
	意識するバリア項目 (回答が多かった項目)	⑨	⑦⑬	⑨	①	①	①⑦⑨				①②⑤	①	①⑦⑨	①	⑦	①	⑦	

【凡例】①入り口の段差、②入り口の段差解消ステップ、③店先の駐輪や駐車、④ドア幅、⑤ドアの形状(引き戸)、⑥ドアの形状(開き扉)、⑦階段、⑧床面、⑨店内の広さ(狭い)、⑩店内の広さ(広い)、⑪店員の接客態度、⑫店のサービス、⑬他のお客さんとのやりとり、⑭分りづらい案内板、⑮制度的なもの

4. 建物アクセスの実態

4.1 業種別による比較(表2・3)

利用者は建物のアクセシビリティにおいてバリアを意識する傾向があることを踏まえた上で、商店街を構成している建物アクセス実態を捉える為、各アクセスの現状を以下の3つに大別し、比較を行う。

i) 建物の単数階で営業する店舗：1階又は2階等のみ(含地下階)で営業する店舗(例：1階のみで営業する食堂、3階のみで営業する美容室等)

ii) 建物の複数階で営業する店舗：1階から上階(又は下階)までが同じ店舗(例：1階から3階で営業するファーストフード店等)

iii) 建物の全階で営業する店舗：建物自体が同店舗(例：5階建の建物で1階から5階まで本屋)

加えて、各3種類の分類から、以下表2に示すアクセス毎に細分類し、各3種類において、建物のアクセスの特徴を抽出する。

大久保で最も高い割合を占める「販売施設・店舗」に関して、「A-1 直進型」や「A-3 直進型」が高い割合を占め、津田沼で最も高い割合を占める「飲食施設」に関して、「B-4 屋内EV型」や「A-1 直進型」が高い割合を占めている。船橋で最も高い割合を占める「飲食施設」に関して、「A-1 直進型」や「B-3 階段室・EV型」が

高い割合を占め、銀座で最も高い割合を占める「飲食施設」に関して、「B-3 階段室・EV型」が最も高い割合を占めている。

表2 建物アクセス分類

A-1	直進型	前面道路から直接、出入口へアクセスする。
A-2	直進型	前面道路から直接、駐輪・駐車スペースを通り出入口へアクセスする。
A-3	直進型	前面道路から直接、商品棚や机・椅子を避けて出入口へアクセスする。
A-4	迂回型	前面道路から迂回して出入口へアクセスする。
A-5	迂回型	前面道路から迂回して半屋外空間を経て出入口へアクセスする。
A-6	風除室型	前面道路から風除室を経て出入口へアクセスする。
A-7	複数アクセス型	複数の出入口からアクセスする。
A-8	廊下型	前面道路から一度建夫のコア(廊下)を経て出入口へアクセスする。
A-9	カウンター型	出入口ではなく、前面道路に面したカウンターで商品の売売を行う。
B-1	外階段型	建物外階段室(屋外)を通り、出入口へアクセスする。
B-2	階段室型	建物内階段室(屋内)を通り、出入口へアクセスする。
B-3	階段室・EV型	建物内階段室(屋内)又はエレベーターを通り、出入口へアクセスする。
B-4	屋内EV型	建物内のエレベーターを通り、出入口へアクセスする。
B-5	屋外EV型	建物外のエレベーターを通り、出入口へアクセスする。
B-6	複数アクセス型	建物内の階段・エレベーター・エスカレーターいずれかを利用する。
C-1	ビル型	階段によってアクセスする。
C-2	ビル型	階段・エレベーターのいずれかを利用しアクセスする。
C-3	ビル型	階段・エレベーター・エスカレーターいずれかを利用しアクセスする。
D-1	ビル型	階段によってアクセスする。
D-2	ビル型	階段・エレベーターのいずれかを利用しアクセスする。
D-3	ビル型	階段・エレベーター・エスカレーターいずれかを利用しアクセスする。

i: 建物の単数階で営業する店舗、ii: 建物の複数階で営業する店舗、iii: 建物の全階で営業する店舗

表3 業種別にみた建物アクセスの実態

	i												ii			iii						
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	
大久保商店街	①	0.4%	-	-	-	-	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	③	20.6%	0.4%	15.9%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	-	1.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	[100%]	-	-	
	④	10.3%	0.9%	-	-	-	-	-	0.4%	-	2.6%	1.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑤	2.6%	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	0.4%	1.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑥	18.5%	0.4%	-	-	0.4%	0.4%	-	2.1%	-	1.3%	2.6%	-	0.4%	-	-	100%	-	-	-	-	-
	⑦	1.7%	-	-	-	-	0.4%	-	-	-	0.9%	2.1%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4%	0.4%	-	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑨	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4%	2.1%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-
津田沼1丁目商店街	①	-	-	-	-	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.1%	18.2%	-	
	②	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	0.9%	0.9%	0.9%	-	1.7%	-	-	-	-	9.1%	-	
	③	9.4%	-	5.1%	-	-	0.9%	-	-	-	0.9%	1.7%	-	-	1.7%	25.0%	25.0%	-	9.1%	-	27.3%	
	④	5.1%	1.7%	-	-	-	-	-	-	0.9%	1.7%	3.4%	0.9%	1.7%	1.7%	-	-	-	-	-	-	-
	⑤	5.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7%	3.4%	1.7%	-	3.4%	-	-	-	-	-	-	-
	⑥	7.7%	-	0.9%	-	1.7%	-	-	-	-	3.4%	2.6%	9.4%	1.7%	3.4%	25.0%	-	-	-	-	-	-
	⑦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	1.7%	1.7%	-	-	-	25.0%	-	18.2%	9.1%	-	-
	⑧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑨	0.9%	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	2.6%	-	-	1.7%	-	-	-	-	-	-	-
船橋駅前商店街	①	4.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	2.8%	-	-	-	-	-	-	-	20.0%	-	
	②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	③	8.5%	-	13.2%	-	-	-	-	-	-	-	2.8%	-	-	-	-	25.0%	25.0%	20.0%	-	30.0%	
	④	0.9%	-	2.8%	-	-	-	-	-	-	0.9%	3.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.7%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	⑥	13.2%	-	4.7%	-	0.9%	-	-	0.9%	0.9%	-	3.8%	10.4%	-	-	5.7%	-	25.0%	-	10.0%	-	-
	⑦	2.8%	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	5.7%	-	-	2.8%	-	25.0%	-	10.0%	10.0%	-	-
	⑧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	⑨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.9%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
銀座通り	①	0.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8%	-	-	-	-	4.5%	4.5%	-	5.9%	-	
	②	0.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2%	26.7%	2.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	
	③	5.1%	-	0.3%	-	0.5%	-	1.1%	0.6%	-	1.0%	5.4%	0.5%	-	0.2%	38.8%	35.8%	4.5%	14.7%	35.3%	32.4%	
	④	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5%	10.3%	1.4%	-	0.2%	1.5%	-	-	-	-	-	
	⑤	0.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7%	0.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	
	⑥	0.5%	-	0.2%	-	-	-	-	-	-	1.0%	23.2%	3.2%	-	0.5%	3.0%	7.5%	-	5.9%	2.9%	-	
	⑦	-	-	-	-	-	0.2%	-	-	-	0.2%	4.8%	0.2%	-	-	-	-	-	-	2.9%	-	
	⑧	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	⑨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

i: 大久保(N=233)、津田沼(N=117)、船橋(N=106)、銀座(N=629) / ii: 大久保(N=2)、津田沼(N=4)、船橋(N=4)、銀座(N=67) / iii: 大久保(N=1)、津田沼(N=4)、船橋(N=10)、銀座(N=34) (【】:N=1)

【凡例】①金融業施設、②事務施設・オフィス、③販売施設・店舗、④その他の商業・業務施設、⑤その他の医療施設、⑥飲食施設、⑦娯楽施設、⑧スポーツ施設、⑨その他の教育・科学・情報施設

4.2 商店会加盟別による比較(表4)

建物のアクセス実態に関して、運営者アンケート調査結果より得られた商店会への加盟している店舗と建物アクセス分類について表4に整理する。

まず、建物の単数階で営業する店舗の建物アクセス分類について結果を整理する。

大久保で最も高い割合を占める「A-1 直進型」は商店会加盟率が39.4%であり、未加盟の店舗が多い結果を得た。また、加盟率が未加盟率を上回る結果を得たのは「A-3 直進型」、「A-6 風除室型」、「A-7 複数アクセス型」、「A-9 カウンター型」、「B-4 屋内EV型」であった。

津田沼で最も高い割合を占める「A-1 直進型」は商店会加盟率が61.1%と、加盟の店舗が多い結果を得た。一方で、「A-1 直進型」、「A-3 直進型」、「A-5 迂回型」以外の店舗は未加盟率が加盟率を上回る結果である。

船橋で高い割合を占める「A-1 直進型」や「B-3 階段室・EV型」は商店会加盟率が約80%と、加盟の店舗が多い結果を得た。また、「B-2 階段室型」及び「B-6 複数アクセス型」以外は加盟率が未加盟率を上回る結果である。

銀座で最も高い割合を占める「B-3 階段室・EV型」は商店会加盟率が27.8%であり、未加盟の店舗が多い結果を得た。更に、「B-3 階段室・EV型」に加えて「B-2 階段室型」、「B-6 複数アクセス型」は未加盟率が加盟率を上回る結果である。

次に、建物の複数階で営業する店舗の建物アクセス分類について、銀座では「C-1 ビル型」、「C-2 ビル型」、「C-3 ビル型」全ての店舗は商店会に加盟していることが明らかになった。

最後に、建物の全階で営業する店舗の建物アクセス分類について、津田沼では「D-1 ビル型」及び「D-3 ビル型」は全ての店舗が商店会に加盟していると共に、「D-2 ビル型」においても半数以上が商店会に加盟している結果を得た。船橋では「D-1 ビル型」及び「D-2 ビル型」は全ての店舗が商店会に加盟していると共に、「D-2 ビル型」においても半数以上が商店会に加盟している結果を得た。銀座では「D-2 ビル型」及び「D-3 ビル型」は全ての店舗が商店会に加盟していると共に、「D-1 ビル型」においても半数以上が商店会に加盟している結果を得た。

表4 商店会加盟別にみた建物アクセスの実態

	i														ii			iii			
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3
①	39.4%	25.0%	57.1%	-	0.0%	100%	[100%]	50.0%	[100%]	40.0%	13.3%	[0%]	[100%]	-	-	[100%]	-	-	[100%]	-	-
②	61.1%	33.3%	80.0%	-	[100%]	50.0%	-	-	50.0%	20.0%	18.2%	20.0%	[0%]	40.0%	-	[100%]	-	[100%]	[100%]	66.7%	100%
③	76.5%	-	92.3%	-	-	-	-	[100%]	[100%]	-	0.0%	78.6%	-	-	50.0%	-	50.0%	[100%]	[100%]	100%	50.0%
④	90.0%	-	100%	-	[100%]	-	50.0%	-	-	-	[0%]	27.8%	100%	-	0.0%	100%	100%	[100%]	66.7%	100%	100%

【凡例】 ①大久保商店街、②津田沼1丁目商店街、③船橋駅前商店街、④銀座通り ():N=1

4. 3 運営側の取り組み別による比較 (表5)

建物のアクセス実態に関して、運営者アンケート調査結果より得られた店舗で取り組むBFもしくはUD対策していると回答した店舗のアクセス状況と比較し、表5に整理する。

まず、建物の単数階で営業する店舗の建物アクセス分類について結果を整理する。大久保及び津田沼で最も高い割合を占める「A-1 直進型」の場合、「対策していない」という回答が「対策している」を上回る。一方で、船橋の「A-1 直進型」では「対策している」という回答が「対策していない」を上回る結果であった。銀座で最も高い割合を占める「B-3 階段室・EV型」の場合、「対策していない」という回答が「対策している」を上回る結果を得た。銀座の場合「A-1 直進型」以外は半数以上から全ての店舗が「対策し

ていない」と回答する特徴がみられる。

次に、建物の複数階で営業する店舗の建物アクセス分類について、銀座では、「C-1 ビル型」は全ての店舗が「対策していない」と回答する一方で、「C-2 ビル型」は半数以上、「C-3 ビル型」は全ての店舗が「対策している」と回答した。

最後に、建物の全階で営業する店舗の建物アクセス分類について、津田沼では「D-2 ビル型」及び「D-3 ビル型」は全ての店舗が「対策している」と回答する一方で「D-1 ビル型」は半数以上が「対策していない」と回答する結果を得た。船橋及び銀座では「D-2 ビル型」において半数以上が「対策している」と回答すると共に、銀座の「D-3 ビル型」は全ての店舗が「対策している」と回答した。

表5 運営側の取り組み (対策している店舗) 別にみた建物アクセスの実態

	i														ii			iii			
	A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	A-8	A-9	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3
①	40.8%	25.0%	53.8%	-	100%	50.0%	0.0%	75.0%	0.0%	16.7%	0.0%	[100%]	[100%]	-	-	50.0%	-	-	0.0%	-	-
②	38.9%	66.7%	75.0%	-	0.0%	50.0%	-	-	-	0.0%	100%	100%	[100%]	100%	-	0.0%	-	[100%]	33.3%	100%	100%
③	83.3%	-	66.7%	-	-	-	-	0.0%	[100%]	-	0.0%	100%	-	-	-	-	100%	[100%]	0.0%	66.7%	50.0%
④	50.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	0.0%	-	-	-	0.0%	11.1%	0.0%	-	0.0%	0.0%	75.0%	[100%]	33.3%	57.1%	100%

【凡例】 ①大久保商店街、②津田沼1丁目商店街、③船橋駅前商店街、④銀座通り ():N=1

5. まとめ

本稿では、関東圏における4つの商店街を研究対象に、商店街を構成する建物に視座を置き、利用者意識・運営者意識及び現状との比較を通じて市街地空間 (商店街) における実態とノーマライゼーションの理念に環境づくりに関する基礎的知見として、以下の特性を明らかにした。

1) 建物において利用者が意識するバリアに関して性別・年代毎に比較した結果、大久保及び銀座の場合、男性女性共に全ての年代でバリアを意識しない利用者の方が多く一方で、津田沼及び船橋の場合、男性より女性 (若年層から中年層) がバリアを意識する傾向がみられた。

2) また建物のアクセス実態に関して、建物の複数階で営業する店舗や建物の全階で営業する店舗の方が建物の単数階で営業する店舗より商店会加盟率が高く、建物アクセス分類別に対策状況も異なる傾向がみられた。

参考文献

- 1) 中小企業庁：平成21年度中小企業庁委託事業 平成21年度商店街実態調査報告書 概要版、(株)ちばぎん総合研究所、2010.3
- 2) 大阪府建築士会建築情報センター 編：CI/SFB 実用的な建築情報の分類法、大阪府建築士会、1979.11

注釈

- 注1) 参考文献1) pp.2の中で、商店街タイプは以下に定義されている。1) 近隣型商店街：最寄品 (消費者が頻繁に手軽にほとんど比較しないで購入する物品。加工食品、家庭雑貨など) 中心の商店街で地元主婦が日用品を徒歩又は自転車などにより買物を行う商店街、2) 地域型商店街：最寄品及び買回り品 (消費者が2つ以上の店を回って比べて購入する商品。ファッション関連、家具、家電など) が混在する商店街で近隣型商店街よりもやや広い範囲であることから、徒歩、自転車、バス等で来街する商店街、3) 広域型商店街：百貨店、量販店を含む大型店があり、最寄品より買回り品が多い商店街、4) 超広域型商店街：百貨店、量販店を含む大型店があり、有名専門店、高級専門店を中心に構成され、遠距離から来街する商店街。
- 注2) 業種はインターネットでの事前調査及び目視調査より、各商店街で運営する店舗・施設の業種について (参考文献2) の建築分類法を基に分類している。複数階に渡りテナントを展開している店舗は1件としてカウントしている。(例：Aビルの1階～5階は同じメーカーの衣類販売店の場合は「販売施設・店舗」1件としてカウント。) また、百貨店や大型量販店等に関しては、「販売施設・店舗」に分類している。

本論文に関する既発表論文

- 1) 野田りさ、川岸梅和：利用者意識からみた商店街の現状並びに課題について 商店街におけるバリアに関する研究、日本建築学会計画系論文集、第78巻、第690号、pp.1783～1791、2013.8